

北薩感染症情報

2019年第47週(11月18日～11月24日)

【問い合わせ先】 〒895-0041 薩摩川内市隈之城町228番地1
 北薩地域振興局保健福祉環境部(川薩保健所)健康企画課
 電話 0996-23-3165 FAX 0996-20-2127
 E-メール kita-kenkou-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

川薩・出水保健所における定点報告疾患

◎: 警報発令中 ○: 注意報発令中

定点種別	対象疾患	警報レベル			注意報レベル	川薩保健所管内					出水保健所管内				
		開始基準値	終息基準値	基準値		前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報	前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.0	10.0	10.0	36	29	4.14	↓	-	19	36	7.20	↗	-	
小児科 定点	RS	-	-	-	4	1	0.25	↓	-	-	-	-	→	-	
	咽頭結膜熱	3.0	1.0	-	3	1	0.25	↓	-	4	1	0.33	↓	-	
	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-	11	8	2.00	↓	-	7	3	1.00	↓	-	
	感染性胃腸炎	20.0	12.0	-	9	13	3.25	↗	-	10	8	2.67	↓	-	
	水痘	2.0	1.0	1.0	1	-	-	↓	-	2	1	0.33	↓	-	
	手足口病	5.0	2.0	-	5	2	0.50	↓	-	17	6	2.00	↓	◎	
	伝染性紅斑	2.0	1.0	-	7	5	1.25	↓	◎	-	-	-	→	-	
	突発性発疹	-	-	-	6	1	0.25	↓	-	-	-	-	→	-	
	ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-	12	1	0.25	↓	-	-	-	-	→	-	
	流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
眼科 定点	急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-	-	-	-	→	-	/	/	/	/	/	
	流行性角結膜炎	8.0	4.0	-	1	-	-	↓	-	/	/	/	/	/	
基幹 定点	細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
インフルエンザ 入院報告	-	-	-	-	-	/	/	-	/	/	/	/	-		
報告数合計		-	-	-	95	61	/	↓	/	59	55	/	↓	/	

<注意報・警報>

- ・川薩保健所管内 伝染性紅斑の警報が14週連続継続中。
- ・出水保健所管内 手足口病の警報が2週連続継続中。

<全数報告>

- ・川薩保健所管内 梅毒(患者1人), つつが虫病(患者1人)
- ・出水保健所管内 結核(患者1人), つつが虫病(患者1人)

<インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等>

- ・川薩保健所管内 なし
- ・出水保健所管内 なし

[11月16日～12月15日は鹿児島レッドリボン月間]です。

エイズの蔓延防止及び感染者・患者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として定められた12月1日の「世界エイズデー」を中心とした1ヵ月間を「鹿児島レッドリボン月間」と定めています。

(注意報・警報)

○伝染性紅斑について

【警報開始基準値 2.0, 警報終息基準値 1.0】

(第47週は川薩・出水のみ掲載)

第47週の伝染性紅斑の発生状況は、川薩保健所管内からは、5名(定点当たり報告数 1.25)の報告がありました。

14週連続の警報継続中です。引き続き感染の予防をお願いします。

出水保健所管内からは報告がありませんでした。

伝染性紅斑とは、ヒトパルポウイルスB19を病原体とし、幼児、学童の小児を中心にみられる流行性の発疹性疾患です。両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」と呼ばれています。



○手足口病について

【警報開始基準値 5.0, 警報終息基準値 2.0】

(第47週は川薩・出水のみ掲載)

第47週の手足口病の発生状況は、川薩保健所管内からは、2名(定点当たり報告数 0.50)の報告がありました。

出水保健所管内からは、6名(定点当たり報告数 2.00)の報告がありました。

2週連続の警報継続中です。

引き続き感染の予防をお願いします。

(手足口病とは)

手足口病は、水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症です。

(症状)

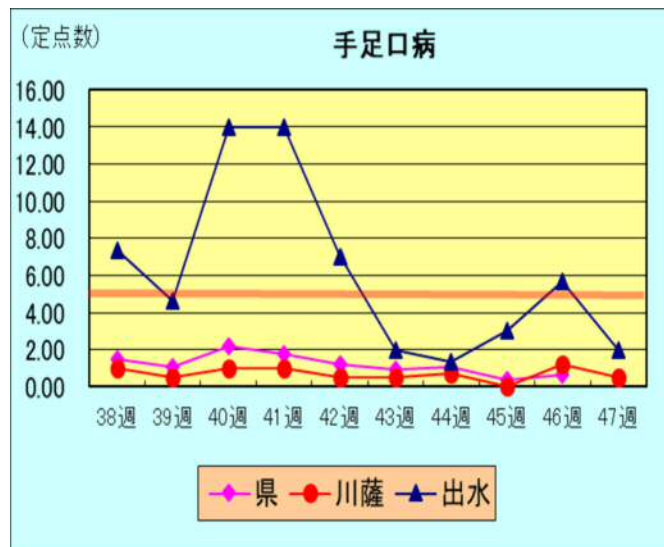
3～5日の潜伏期において、口腔粘膜、手掌、足底や足背などに水疱性の発疹が出現します。一般的には、発熱で始まる軽い病気で、ほとんどの人が、1週間から10日程度で自然に治ります。まれに髄膜炎等の中枢神経症状が発生することもあります。

(感染経路)

飛沫感染、便中に排泄されたウイルスによる経口感染、水疱内容物からの感染などがあります。

(予防法)

予防対策としては、患者に近づかない、手洗いの励行などです。ウイルスは、患者が回復しても2～4週間程度、糞便の中に排出されますので、排便後の手洗いの徹底が大切です。



○ インフルエンザ

第47週のインフルエンザの発生状況は、川薩保健所からは29名(定点当たり報告数 4.14)の報告がありました。

出水保健所からは36名(定点当たり報告数 7.20)であり、**3週間連続で増加**しております。今後も感染予防に努めてください。

下記の内容を参考に予防に努めてください。

◎ 特徴と対策について

「重症化して合併症を引き起こす、いちばん身近な感染症」

○ インフルエンザの合併症は死に至る場合も

特に高齢者にとって、インフルエンザは大変危険な病気です。抵抗力が弱い高齢者や乳児、持病のある人は、肺炎を併発し、最悪の場合は死に至る場合もあります。

○ インフルエンザの予防法

- ・手洗い、マスク、予防接種
(飛沫感染、接触感染の予防)

○ インフルエンザにかかってしまったら

- ・すみやかに受診
- ・自宅療養の注意点

家族への感染を防ぐため、なるべく家族から離れた個室で療養し、マスク着用、部屋の換気を行うことが重要です。

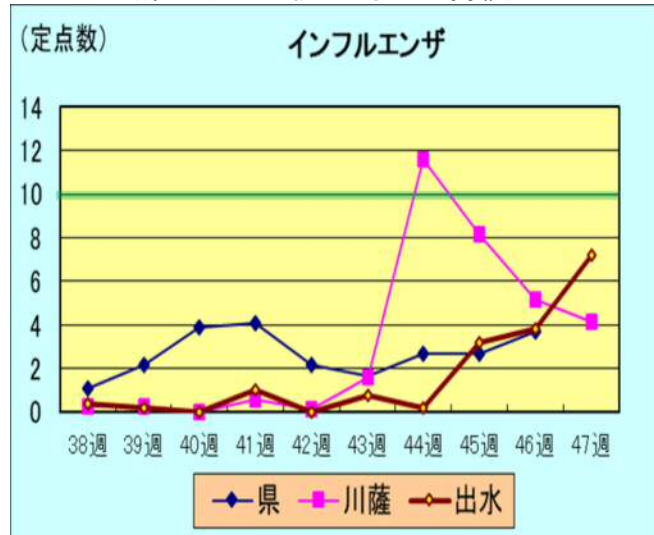
○ 咳エチケットも「うつさない」「うつらない」ための重要なマナー

咳やくしゃみができるときには、ティシュペーパーなどで鼻と口を押さえることが重要です。

※ 厚生労働省インフルエンザ啓発ツールへリンクしています。

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/keihatu.html>

(第47週は川薩・出水のみ掲載)



インフルエンザの感染を防ぐポイント...



インフルエンザ予防接種...

ツツガムシに注意してください

鹿児島県では、11月から1月にかけてのつつが虫病の発生届出が多くみられます。平成30年の感染症発生動向調査における発生状況は、鹿児島県では89件（全国453件）となっており、全国で最も多くなっています。

先週、川薩保健所管内、出水保健所管内からそれぞれ1件ずつ発生届出がありました。

つつが虫病とは

- 1 つつが虫病は、草むらや草木のよく繁った場所でツツガムシ（ダニの一種で大きさは約0.3から0.5mm）に刺されておこる病気です。つつが虫病の人から人への感染はありません。
- 2 刺された箇所（刺し口）はまず赤く腫（は）れ、その周りが小さな水ぶくれになり、約10日後には黒いかさぶたとなります。この頃から全身のだるさ、頭痛、食欲不振、発熱など風邪と似た症状とともに、胸、腹、背中などに赤い発疹が現れ、39度から40度の高熱が続きます。
- 3 治療が遅れるとなかなか治らず、肺炎のような症状が現れ、せきが出たり、肝臓や脾臓が腫れるなど全身症状が強くなることもあります。

※ 予防や咬まれたときの対処法については、下記をご参照ください。

厚生労働省 ダニ対策

「ダニ」にご注意ください

山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう

春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。
野山に生息するダニに咬まれることで
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病などに感染することがあります。

ダニに咬まれないためのポイント！

- 肌の露出を少なくする
⇒ 帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等
- 長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する
⇒ シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中
- 足を完全に覆う靴を履く
⇒ サンドル等は避ける
- 明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）
 - * 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう
 - * 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう
特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意

ダニに咬まれたときの対処法

- 無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。
- マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】
① 野外活動の日付け、② 場所、③ 発症前の行動



約3cm	約0.5cm	約1.5cm
		
ペットボトルのキャップ	マダニ（雌成虫）	マダニ（雄成虫）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPE参考してください

平成29年4月